

[COMMUNION]

WEB:http://www.nskk.org/  
tokyo/index.html  
E-mail:comm.tko@nsk.org  
PHONE:03-3433-0987  
FAX:03-3433-8678  
Diocese Office



キャンプ特別号  
第53号 (通巻1288号)  
2019年10月13日  
編集: 広報委員会  
委員長: 渡辺康弘  
日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18

# 2019年キャンプ特集



教区合同「子どもキャンプ」  
「みんな神さまの家族」  
SNSネットワーク・チャプレン

司祭 高橋 顕

合同子どもキャンプは7月23日から25日までの2泊3日、清里高原のキープ・フォレストスターズキャンプ場で行われました。今年のキャンプのテーマは「見つけよう！」です。参加者は小学1年生から6年生までの36名、3分の2程は女の子です。スタッフは15名で総勢51名、このキャンプは今年で7回目の開催です。

このキャンプは参加者が4つのグループに分かれてプログラムを進めていきます。初日は新宿に集合してご家族に見送られてバスで出発です。その時の子ども達の表情は様々です。不安げな子、解放感に歓喜している子、ご家族のお見送りそっこのけで隣の席の子と談笑している子…。でも、行きバスの中での楽しいゲームや到着後の森の大きな広場でお弁当を食べながら、いつしかみんなは大きな家族になっていきます。お弁当の後の広場での遊びや凧揚げで、すっかりキャンプの世界に入ります。

午後はいよいよ参加者のグループ分けとグループの仲間づくりです。一緒にキャンプに参加した日頃のお友達がこのキャンプのグループでも一緒、と思ったら大違い。年下や年

上の初めてのお友達と出会います。そして自分達のグループの名前、リーダーと副リーダー、きまりを決めるために、たつぷりと話し合いの時間を過ごします。このような話し合いの雰囲気と経験自体、初めての参加者も多くいます。そして夕方はお風呂と自由時間、夕食となります。お風呂では誰かが自分の体を洗ってくれると思ったりまた大違い。自分で髪や体を洗う初めての経験をした参加者も何人かいます。夕食の時も自分の好きなものだけを食べてもいいと思ったり、またまた大違い。好きではないものも食べるこの覚悟と緊張感を初めて知った参加者が何人もいました。初日の夜は雨が降り、予定していた夜の森の体験は中止です。しかし代わりのプログラムで、夜のグループごとのキャンビン巡りで楽しみます。各キャンビンにはそれぞれお楽しみみの出来事が待っていました。このようにして、参加者にとっては初体験満載の初日が終わり、おやすみグループに分かれて各キャンビンで夢の中に入りました。それにしても自分にとつて「大違い」と「初めて」を初日にすでに多く体験するとは、キャンビンのテーマである「見つけよう！」がもう達成したような感です。

2日目の日中は天候に恵まれ、グループで地図を持って課題達成・目的達成に向かってのオリエンテーリング

です。ここでグツとグループが結束し、集団行動をさらに体験します。午前から午後にかけてのこのプログラム



区の高橋宏

幸主教様もご参加下さり、一緒にお弁当を食べ、一緒にソフトクリームを食べ、主教様は参加者全員に「みんなが一つになることの大切さ」をお話し下さいました。夜のキャンプファイヤーは、直前のどしゃ降りでも中止となりましたが、ホールでろうそくの灯をともしてキャンドル・キャンプファイヤーをしました。歌あり踊りあり、各グループで準備した振り付けの合唱の披露あり、スタツフの劇ありの、あつという間の楽しいキャンプファイヤーでした。体力、気力、知力を全て使い尽くして、2日目の夜も夢の中です。あつという間の3日目を迎えました。この日になったら、参加者のことも達もスタツフ達も、すっかりもう一緒の、神さまの大きな家族です。でも、もうキャンプは終わりです。森で拾っ

た木枝や木の実や草や枯葉を使って、記念のおみやげの写真立てを作りました。最後の昼食を食べて、キャンプの終わりのお祈りと、6年生のこどもキャンプ卒業式を行いました。今年の参加者の6年生は男の子が3名です。考えてみれば、この卒業生達、何年も前のキャンプに初めて参加した時は、ちっちゃかったなあ。卒業式も終わって最後の最後に、キャンパーの51名がお互い全員で握手を交わし合い、帰りのバスに乗りました。みんな、日常のそれぞれの家庭に帰って行きます。キャンプとは違う世界に。ちよつと寂しいな。でも大丈夫。みんな神さまの大きな家族です。

このキャンプを覚えてお祈り下さり、ご支援下さった全ての方々に感謝致します。ありがとうございました。

### キャンプの思い出

#### 6年 杉山響

ぼくは山梨県北杜市清里へ「こどもキャンプ」に行きました。3年生から行っているの、今年で3回目になります。

ぼくは参加するたびに、プログラムが変わっているというのに気がきました。それは先生方がぼくたちを飽きさせないために工夫してくださったことだと思ひ感謝しています。特に思い出に残ったことは、牛乳の

入ったペットボトルを振って作る「バター作り」です。振るのはとても大変でしたが、班のみんなで力を合わせ努力したので、たくさんバターが出来上がりました。パンにつけて食べるととても美味しかったです。

2日目のキャンプファイヤーは雨でできなくなり残念でした。でもかわりに室内で楽しく歌ったり踊ったりして楽しかったです。

また、今回のキャンプは班長になったので、班をまとめるのがとても難しかったのですが、みんなの意見を聞いて、なんとか班長らしく行動できたと思うので、自分の成長を感じました。

来年からは中高生キャンプです。そこでもたくさん学べることを楽しみにしています。



### 楽しみにしていること

#### 6年 箱田諒太郎

ぼくは3年生の時からこどもキャンプに参加しました。3年生の時に教会でキャンプのポスターを見つけたので

すが、もう締切り

が過ぎていました。「行けるかもしれない」と思って電話をかけてもらいましたが、「もういっぱいなので」と言われませんでした。がっかりしました。出発3日前に、「キャンセルが出たので行けません」と連絡がありました。ぼくは「ヤッター」と叫びました。キャンプは楽しくて、それから4年間毎年参加しました。



オリエンテーリング当日

キャンプの内容が楽しかったのはもちろんなのですが、ぼくが毎年楽しみにしていたのは友達と会うことでした。普段は会えない友達と遊んだり、ハイキングをしたりするのが楽しかったです。

5年生の時はお体が体調不良になり最後の6年生では、大雨のためキャンプファイヤーが中止になったので、2年連続でキャンプファイヤーに参加出来なかったのは残念でしたが、ナイトゲームやキャンプファイヤーの代わりにキャンドルファイヤーをしたりと、他にも楽しいことが沢山ありました。友達や先生達と会えなくなるのは

さみしいですが、また中高生キャンプや教区フェスティバルなどがあれば、行ってみんなに会いたいです。

4年間ありがとうございました。

### しんがり

#### 5年 乗木 共笑

私が、このキャンプに参加して、一番心に残ったのは、オリエンテーリングの「コマ」です。

私は、副リーダーだったため、一番うしろに立って行かなくていいので、正直、「前の方に行きたかったなあ」と思いました。

オリエンテーリングでは、シールを見つけていけばなりません。シールを見つけない必要があり、札の周囲にシールがあります。私は一番うしろに立っていたので、1枚も見つけられませんでした。あと1枚シールを見つけたら、足が怪我したのか4年生の子が、私よりうしろにいたので、一緒に行つてあげました。すると「ありがとう」と言ってくれて、うれしくなりました。

「やっぱ、一番うしろもいいかも。」と思いました。

### 夏の楽しい思い出

#### 5年 仲江 美鈴

私はこの清里のキャンプで沢山の自然をこの肌で触れてきました。毎朝、雨上がりだったので、空気の澄んだ気持ちのいい朝をむかえる事ができました。毎日、レノックス礼拝堂で、聖書のお話を聞いたり、聖歌を歌ったり、神様に向き合える時間は、とても大切なんだなと改めて思いました。すがすがしい森の匂いの中、礼拝するのは、東京とは全然ちがう雰囲気です。良かったです。

また、初めて会う仲間たちや、昨年も会った事がある子などチームになってワイワイ過ごし、一緒にいると自然に笑顔になりました。先生たちも優しく、雨でできなかったキャンプファイヤーは室内で沢山盛り上げて下さいました。

私は、この清里の自然の豊かさの中で、さわやかな気持ちになれました。また、仲間と何事も楽しく行こうという事も過ごしている間に学びました。キャンプファイヤーができて残念でしたが、夏の楽しい思い出の一つになって良かったです。



キャンプのお友達は、優しい子が多くて毎日おだやかです。「金魚さんとメダカさん」の踊りの歌詞のように、皆にちがいはあるけれど、一緒にいって仲良くゆかいに過ごせます。

♪ ああ、ゆかいだなっ♪  
来年は最後になるので、思い切り楽しみたいです。

## 中高生世代キャンプ

「ちよっと踏み出す？」

(8月16日～19日)

長野県のシャロームロッジで行われた今年度の中高生世代キャンプに集まったのは、キャンパー12名、スタッフ10名の合計22名。キャンプテーマ「ちよっと踏み出す？」には、このキャンプが何かの一步を踏み出すきっかけになってほしいという願いが込められていました。一人一人が様々な思いを抱えながらも共に4日間を過ごすことで、多くの気付きと大切な仲間を得ることができました。今年度も大変多くの方々のご支援、お力添えをいただきました。スタッフ一同より心から感謝申し上げます。



石川 瑞季

はハイキング。普段の東京では味わえない一面緑の景色をいくつかのグルーピングに分かれて進む。みんなで楽しく話したり、写真を撮ったり、歌を歌ったりしながらハイキングが出来て僕の緊張もほぐれていった。みことばや分かち合いの時間に自分の意見を発表し、他人の意見を聞いて、みんなでいるるな意見が上がったと思った。みんな

に思います。初めの日に集合場所に行く前に、私と同じように大きな荷物を抱えた女の子に会い、なんと道端で自ら話しかけることができたのです。今までかたりの人見知りをしてきた私がそんな行動をできたことに自分が一番驚きました。また、年の差も性別も何も関係なく自分の心の奥底にしまつてある本音で語り合えたことははじめての体験でした。自由とは何かを考えたり、未来に行きたいか過去に戻りたいかを話し合ったり、本来なら人と話さないことを向き合って話せたことはすごく貴重な時間になったなと思いました。わざわざ人と話す必要はないと思う人もいるかもしれないけれど、こういった時間でも大切だと感じたし、それによって心の中が整理されたように思います。自分自身について考え直したい人、心と心で語ることができる友達が欲しい人など、ぜひ参加してみてください。私にとっては今まで過ごしてきた中で最も「考える」ということをした夏になりました。

## 【キャンパー感想】

山本 和輝

僕は、昨年に引き続き2回目のキャンプに参加した。今回のキャンプは2日目からの途中参加だった。初めていくシャロームロッジに着くまで、僕は大きな不安と楽しみとドキドキの感情が入り混じっていた。シャロームロッジに着いてすぐに行われたプログラム

主催の中高生キャンプに参加しました。普段あまり教会に通っていない私がいきなりそんなものに参加しても良いのか分からなくて悩みましたが、その時「行く」と決めた私に拍手したい気分です。今回のキャンプのメインテーマは「ちよっと踏み出す？」というものでしたが、私は初日から自分の殻を破って一歩どころか五歩くらい踏み出せたよう

道須 南人

中学2年生の頃から参加し始めた中高生キャンプには、今回は高校2年生として4回目の参加になりました。最初は僕より年上の子が沢山いたのに、気が付けば今年もキャンパー内最年長の一人です。年上の人達の一部はそのままス



最初は

「違う教会の同年代の人と過ごす経験」

だけだったのが、どんどん関わったり学んだりしようと思えるようになってきました。ですからこれからキャンプに参加しようとしている人にも、「楽しい」はもちろん忘れずに、だけどそこから一歩踏み出すということをやってみてほしいです。

本幡 千晴

私は今回で3回目の中高生キャンプでした。どの年も3泊4日とても楽しく充実していましたが、今回のキャンプで一つ違ったのは自分達の代がキャンパー最年長ということでした。なので3回目である今回のキャンプでは、新しくくるキャンパーの子に声をかけたり、今まで以上にいるんな人と喋りたいなって思っています。

みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり、ジンギスカンを踊ったり。なにをしても楽しくて、キャンプファイヤーの時のみんなの一体感が私はすごく好きです。そして2回目に参加したときから初参加の人が楽しかった、キャンプに参加してよかったと言ってくれるのを聞くのがとても嬉しいです。このキャンプだからこそ思えるんだと私は思います。私は中学1・2年生の時は参加していませんでした。行けばよかったなと後悔するくらいこのキャンプが毎年とても楽しくて、この中高生キャンプに出会えて良かったと思います。これから毎年キャンプに参加できるとは限らないですが、これからも私はこの中高生キャンプに関わりたいと思います。

## 【スタッフ感想】

小幡 千花

キャンプでは、初参加のメンバーとも3泊4日で仲が深まったし、もともと知っていたキャンパー、スタッフのことも新しい一面を知ることができました。また、今までのキャンプ以上に自分から話しかけることができたと思います。今回のキャンプで一番印象に残っているのはキャンプファイヤーです。



最後のキャンプとして迎えた9年目のキャンプ。気がついたら本当の本当に最後のキャンプとなっていました。今年度は個性豊かすぎるスタッフと元気いっぱいキャンパーと全員が一体となって自然豊かな

北久保 光宣

このキャンプに関わり始めて早くも5年が経った。最初は親に言われ嫌々行ったが今やスタッフ2年目になった。中高生達にとって、スタッフの青春だ。今回のテーマ『ちよっと踏み出す?』はそんな中高生青年に自分の未来はどうなっているのかどうしたのかを考えさせるものとなった。その場にいる人達が生き生きと非日常を楽しみ、自身と向き合い、わかちあうこのキャンプを私はこれからも大切にしたい。

スタッフとして4回目の参加となりました。このキャンプに昔から根付く「誰もが必要な存在である」という雰囲気は、いつの間にか私自身の価値観の土台となっていました。最後のキャンプ、キャンパー・スタッフみんなの頼もしい姿を見て、ちよっと踏み出す勇気をもらえたような気がします。今年もたくさんのお支え、お祈り、温かいお言葉を、ありがとうございます。これからもこのキャンプが中高生世代にとっての心の拠り所として、在り続けることができますように。

穂積 香菜

今回初めてスタッフという立場から参加しました。今までキャンパーとして参加してきて、楽しいキャンプを今度自分が作るんだと最初は意気込んでいましたが、意見がまとまらないなど大変なことが多く、途中で嫌になることもありました。でもキャンプ当日は心が折れたりしながらも今までの中でも印象深く、とても楽しいキャンプとなりました。来年は今年の反省を活かして、もっともっと楽しいキャンプをつくりたいです。

私は中高生キャンプにずっとキャンパーとして参加して来ました。しかし今回スタッフとして参加したことでキャンプに対する意識がだいぶ変わりました。準備期間中色々なことがありましたが今回のキャンプで得られたものはとても多いと感じました。また、キャンプ中もみんな支えあいながら最高のキャンパーに巡り会えて、とても楽しいキャンプにできたかなと思います！

本多 悠輝



のうち今回はスタッフとして2回この中高生世代キャンプに参加している。スタッフだろうがキャンパーだろうがこのキャンプにかける思いに大きな違いはない。という事に気づいた。もちろんキャンプの準備のために奔走していったスタッフたちではあるが、来てくれる中高生と共に過ごす4日間でのキャンプは完成するんじゃないかと感じる人、また、それを支えるすべての人たちが全員に神の導きと祝福がいつもありますように。

本間 光

僕は中高時代にキャンプに参加した事がなく、スタッフという立場になってから初めてキャンプに参加しました。スタッフ全員の「新しいキャンプを作りたい」という意志が今年のキャンプをより良いものにしたと思います。キャンプでは天体観測などシャロームロッジでしか味わえないプログラムもあり、スタッフもキャンパー同様の底から楽しむことができました。中高生たちの純粋な成長過程にスタッフの一人として関わられたことに感謝します。

人生の中で、4回目のキャンプ。そのうち今回はスタッフとして2回この中高生世代キャンプに参加している。スタッフだろうがキャンパーだろうがこのキャンプにかける思いに大きな違いはない。という事に気づいた。もちろんキャンプの準備のために奔走していったスタッフたちではあるが、来てくれる中高生と共に過ごす4日間でのキャンプは完成するんじゃないかと感じる人、また、それを支えるすべての人たちが全員に神の導きと祝福がいつもありますように。

松原 雄貴

今年初めての中高生キャンプに参加して6年が過ぎて同じ場所でも初めてのスタッフをできたこととはとても感慨深いです。

本幡 明子

準備をしているときはとても大変でやだなと思うこともありましたが、キャンプ中、中高生がどんどん成長して行く姿をみてこの中高生キャンプって素晴らしいなと改めて思いました。

今年初めての中高生キャンプに参加して6年が過ぎて同じ場所でも初めてのスタッフをできたこととはとても感慨深いです。

チャブレン 司祭 中川 英樹

「ちょっと踏み出す？」と答える。前は「嫌だ」と答える。前ばかり目指すより、留まることの方が難しく、また大切に感じるから。そんな風に思っていたら、スタッフミーティングの議論にて、「踏み出さないという選択も、踏み出すってことなので？」という発言が。たしかに、と頷いた。「踏み出す」って何だろう。3泊4日皆が深く語り合ったように、教会という信仰共同体で語り合っても面白そうだ。



小幡千花、北久保光宣（聖マーガレット教会）、新妻夏奈（聖マーガレット教会）、穂積香菜（三光教会）、本多悠輝（聖マーガレット教会）、本間光（三光教会）、松原雄貴（立大学院諸聖徒礼拝堂）、本幡明子（聖救主教会）、司祭 太田信三、司祭 中川英樹

東京教区青年会

第2回サマーキャンプ

(8月2日〜4日)

金曜日の夜、総勢8名で東京を出発し、2泊3日のキャンプに行ってきた。普段の生活環境とは異なる、自然豊かな湯ノ丸高原で、おいしい食事と優しい仲間と囲まれ過ごした3日間。共に生活し、語り合い、笑い合うことで、「わたしたち」というキリストに連なる者として大切な感覚を思い出すことのできたキャンプでした。このキャンプを支えてくださったすべての方々に感謝します。

【参加者の声】

日常から離れ豊かな自然の中で寝食を共にし、聖書のわかちあいや黙想を通して語り合い、心の距離が縮まりました。普段顔を合わせていても話さないようなことや、ゆっくりな時間の中でこそ気づくことができた自分の気持ち・悩みなども素直に話し、分かち合うことができました。昨年参加した人も、今年は違う状況の中にあい変化があったことがわかりまし



た。年齢もバックグラウンドも違う人たち。ずっと前からの知り合いもいれば、初対面の人もいます。偶然集ったメンバーであってもお互いの存在を認め、受け入れ合える。それがなにより大切なことだと感じました。年に一度、そんな素敵な時間を与えられていることに感謝したいです。

下条 あすか



今年初めて青年会のキャンプに参加しました。都内には見られない大自然の中で日常生活を休憩するような、初参加の自分にとっても安心感のある空間でした。同世代というには少し幅の広い世代で少人数の参加のため、参加したそれぞれとの繋がりも濃くなったように思います。考えを分かち合う時間を通して自分の考え方に刺激が与えられるような、充実した時間を過ごすことができました。大学を卒業する前のタイミングでの参加となり、今までの自分を見つめ直し、将来の自分を考えさせられたキャンプでもあったと感じます。このキャンプで過ごした時間を忘れずに日常を送りたいと思えました。青年会キヤ

た。年齢もバックグラウンドも違う人たち。ずっと前からの知り合いもいれば、初対面の人もいます。偶然集ったメンバーであってもお互いの存在を認め、受け入れ合える。それがなにより大切なことだと感じました。年に一度、そんな素敵な時間を与えられていることに感謝したいです。

12人のキャンパーと8人のスタッフ、それぞれにどんな心持ちなのか。ただ最高で最上のキャンプを創り上げたことは確かかなことのように。たくさんの方の見守りとお支えに感謝です。

【参加者】

中高生世代

五十嵐美咲（神田キリスト教会）、五十嵐結奈（インマヌエル新生教会）、石川瑞季（三光教会）、陶花織（千葉復活教会）、塚田証（聖マーガレット教会）、土井優美（三光教会）、道須南人（インマヌエル新生教会）、宮城祐貴（立大学院諸聖徒礼拝堂）、村松昊（清瀬聖母教会）、村松宏高（聖アンデレ教会）、本幡千晴（聖救主教会）、山本和輝

スタッフ・チャブレン

小幡千花、北久保光宣（聖マーガレット教会）、新妻夏奈（聖マーガレット教会）、穂積香菜（三光教会）、本多悠輝（聖マーガレット教会）、本間光（三光教会）、松原雄貴（立大学院諸聖徒礼拝堂）、本幡明子（聖救主教会）、司祭 太田信三、司祭 中川英樹



下条あすか（聖パウロ教会）、永井智子（三光教会）、中山晴喜（東京聖テモテ教会）、新妻夏奈（聖マーガレット教会）、長谷川善樹（聖マーガレット教会）、平林瑠子（渋谷聖公会聖ミカエル教会）、本多悠輝（聖マーガレット教会）、司祭 太田信三（青年会チャブレン）

本多 悠輝

## 東京教区青年会

### 小笠原プロジェクト

#### 「青年たちが小笠原に出会う」

(9月13日～18日)

2回目の開催となった今年。台風接近の中、自然の力と神さまの恵みを一杯に感じる旅となりました。この旅をご支援いただいた諸教会、諸団体の皆さま、そして私たちを迎えてくださった小笠原聖ジョージ教会の皆さまに心から感謝申し上げます。

#### 【参加者の声】

愛餐会に参加したとき、里帰りに来た子供たちを迎えてくれる親のように、教会の皆さまは温かく歓迎してくださり、愛に満ちた時間を共に過ごしました。自分は、神様から愛されているということ、そして周りには愛する人がたくさんいるという大切なことを思い出させてくれた旅でした。小笠原は愛の島です。この良い経験に感謝の気持ちでいっぱいです。

木枝 萌 (聖パトリック)

私は小笠原で自然や歴史に触れて学んだ。しかし小笠原にはそんなものが小さく見えてしまう程の魅力がもう一つあると感じた。それは人情である。聖ジョージ教会をはじめとする小笠原の人達は皆私たちを温かく迎えてくれた。私たちが暮らす都会には到底感じ



られない程に。小笠原が東洋のガラパゴスと言われる理由が本当はここにあるのではないかと私は感じた。そして小笠原の人を見習って生きたい。

北久保 光宣 (聖マーガレット)

今年で2回目の参加となる小笠原プロジェクトは自分自身について沢山学べる事ができる良い機会となりました。今の生活や将来への悩みなどで焦っている私に、今のまま頑張れば良いという安心感、また神様や周りの人への感謝を感じられる余裕を持つことが出来ました。この様な機会を2度も与えてくださった神様に感謝し、この気持ちを次に小笠原を訪れる時まで忘れずに毎日を大事にしようと思います。

田 知殷 (聖マーガレット)

昨年7月に初めて教会との交わりのきっかけになった教会問答へ参加後、今年6月洗礼、7月堅信、8月青年会キャンプ、そして小笠原プロジェクト参加：と神様のお導きが続き、感謝しています。神様と共に歩む生き方を歩き始め、新婚旅行改め：信仰旅行を楽しんでいます。小笠原の旅では、祈る場所がそれぞれに在ったとしても同じ方向を見つめて、祈ることの喜びを感じさせてもらえました。

中山 晴喜 (東京聖アモナ)

この旅では、他人の目や自分の役割など、普段私を縛り付けているものを捨てて、自然体の私で過ごそうと決めていました。圧倒的な自然の中で自分自身と、そして共に旅をした仲間と向き合う6日間。頑張らなくても人に優しくできる自分と、もっと優しくなりたいと思う自分に出会いました。またいつか小笠原に行くその日まで、この旅で感じたことを自分の心の中に大切に持っておきたいです。

新妻 夏奈 (聖マーガレット)

小笠原は人の心を自由にする場所だと感じた。都会で日常生活を送っていると自分の弱い部分を見せまいと心を固く閉ざしてしまいがちだ。だが、小笠原の深い海の中で自由に泳いでいる魚や海の上を舞うように飛んでいる鳥を目にしたことで、今まで出せずにいた自分の心の内が自然と溢れ出した。人間が生きていく上で必要な心の自由と解放を与えてくれる場所、小笠原に出会えて私は心から良かったと思う。

平林 瑠子 (渋谷聖ミカエル)

憧れていた小笠原プロジェクトについて参加できることになって神様に感謝いたします。行政的には東京でありながら、全く別の風景を昔からとどめていた「小笠原」。その豊かな大自然に囲まれて神様の被造物の人間がどれほど小さな存在かを考えることが出来、これからの人生をどのように生きていくべきか振り返れる貴重な経験でした。

た。そして今回得た大切な絆を栄養分としてまた今を生きたいと思えます。

尹 大輝 (インマヌエル新生)

小笠原は自然・人との関わりにおいてある自分を色濃く感じさせてくれる場所でした。自然や人と共生することには困難が伴う。けれど同時に自分が今ここに生きているという実感や喜びを与えてくれる気がしました。

聖職候補生 荻原 充

出発前夜、台風発生の恐れあり。中止となった一昨年を思い出しつつ、「小笠原の家族と礼拝を共に！」と祈る。主は生きておられる。まことに、すべてが叶えられた旅。聖ジョージ教会の神の家族、青年達、そして、主に感謝。

チャプレン 司祭 太田 信三

青年たちが小笠原聖ジョージ教会や美しい自然に出会う旅は、小笠原の教会に集う者にとってもキリストの家族に出会う励ましの機会でもあります。

小笠原プロジェクトが今年も実現できたことを神様に、送り出してください。皆様に感謝します！

チャプレン

司祭

笹森 田鶴

